

叶麗子さんに励まされ



叶麗子さん(左)と面会し、思いを語る細野壽一さん(浪速区)

群馬から車いすの細野さん来訪 「夢追う姿に感激」

事故で脊髄を損傷し、車いす生活を送る群馬県前橋市の細野壽一さん(73)が大阪市浪速区の通天閣歌謡劇場を訪れ、歌手、叶麗子さんのショーを鑑賞した。細野さんは、本紙教育面「学校と私」に掲載された叶さんの記事(3月12日朝刊)を読み、「障害を持ちながらも夢を追う姿に勇気づけられた」と来訪。叶さんから「夢はあきらめたら終わる。信じていればきっとかなう」と言葉をかけられ、何度もうなずいた。

細野さんは45歳の時、自転車を運転中にバランスを崩して側溝に落ち、脊髄を損傷。全身が不自由になり、日常生活に介助を必要とする。「さげすまれていたような気持ちになる」と、家から出られなくなった時期もあったという。叶さんは生まれつき股関節を脱臼し、上る。事故後は外出もままならなくなったが、「叶さんに作品を見てもらい、一度歌ってほしい」と希望し、トラベルヘルパーの付き添いで来阪した。事前に自作を送付していたため、ショーの後に面会が実現した。

叶さんが「すばらしい感性。レコード会社に相

通天閣歌謡劇場で対面

ていて、足が不自由だが、細野さんは「いじめなどつらい経験を笑顔で乗り越えてきた」という記事に励まされたという。

また細野さんは10代のころから作詞家の夢を持ち、仕事の傍ら書きためた歌詞は500点以上に

談したら、「次の新曲に検討する」と言っていた。今まで細野さんが生きてきた思いを込めて、新しく歌詞を書いてほしい」と伝えると、細野さんは「真っ暗だった世界に光が差した」と喜んだ。

【田中博子】